



図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1. 2021年から利用できる電子ジャーナルが増えました

新規購読

- ACS (American Chemical Society)パッケージ
ACSが発行する全64誌(1996年～最新号まで)の閲覧可能。
- 情報処理学会電子図書館：情報学広場
論文誌(ジャーナル・トランザクション)、研究報告の最新号まで閲覧可能
- Fluid Dynamics Research

冊子から電子ジャーナルに移行(10タイトル)

- ASME Journal 3誌
(Applied Mechanics, Fluids Engineering, Tribology)
- IEEE Security & Privacy
- International Journal of Innovation Management
- Japanese Journal of Applied Physics
- Language Learning
- Nature ■ Science ■ Studies in Language

詳しくは、図書館ホームページの「電子ジャーナル」をご覧ください。

2. 第3回「SIST 読書感想文大賞」表彰式を開催

12月22日(火)図書館内にて表彰式が行われ、図書館長からの作品についての講評のあと、受賞者へ表彰状・副賞が授与されました。この大賞は、本学学生の読書推進を目的に開始され、3年目となります。今年は10作品の応募があり、審査の結果5名の受賞者を決定しました。



- 優良賞：竹内 優太さん(コンピュータシステム学科4年) 作品名「未来を築くデザインの思考」
山本 弓貴さん(建築学科3年) 「水を縫う」
村松 真夕さん(物質生命科学科2年) 「ナイフ」
- 奨励賞：石橋 大覚さん(電気電子工学科3年) 「富士」
内藤 魁人さん(建築学科2年) 「幽霊たち」

また、応募者全員に参加賞を進呈しました。
受賞された皆さん、おめでとうございます。

3. 学生オンライン選書会を実施

コロナ禍において、書店に行って直接本を選ぶ「学生選書ツアー」が実施できない代わりに少しでも学生のニーズに合った資料の選書をしようと、書店のWeb選書システムを活用した「学生オンライン選書会」を企画・実施しました。

初めての試みとあって参加した学生は3名でしたが、『IoTシステムとセキュリティ』『Vue.js入門』『建築情報学へ』など学生の視点で必要とされる本10冊を選んでくれました。

選書図書は、推薦コメントとともに展示コーナーに配架されています。



4. 本学教員の著作物紹介

○物質生命科学科 吉田豊先生編著.

『Modern Mössbauer Spectroscopy (Topics in Applied Physics, vol.137)』 Springer, Singapore. 2021

所在：展示架 539.1/Y65



読書への羅針盤

大石 和臣 先生(コンピュータシステム学科) に聞く

「さまざまに、積極的に」

今回の読書への羅針盤はコンピュータシステム学科の大石和臣先生にお話を伺いました。

大石先生は組込みシステムのセキュリティや、暗号技術などの物理・情報セキュリティを専門として研究されています。先生がこの分野について興味を抱いたのは、大学の指導教員の先生が暗号の研究をされており、その研究室に入ったことがきっかけだそうです。初めはそこまでの興味はなかったそうですが、ネットワーク技術というものが普及していくなか、暗号技術やセキュリティ技術の重大性に気づき、興味がわいてきたとのこと。

大石先生に子供時代について伺いました。屋外ではドッジボールなどの運動をし、屋内ではプラモデル作りや読書をよくしていたそうです。その頃読んだ本はというと、小学校の先生に薦められた『エジソン』の伝記や、『シートン動物記』、推理小説などを読んでいたと語ってくれました。高校でも読書の習慣は続き、日本 SF 御三家と呼ばれる「筒井康隆」、「小松左京」、「星新一」を読んでいたとのこと。また、その中でも「筒井康隆」が特にお気に入り、当時新潮文庫から出ていたものはほとんど持っていたそうです。

そんな大石先生の趣味は音楽鑑賞。ジャンルはロックが好みで、お気に入りのバンドは「ローリ

ングストーンズ」。高校生の頃にはギターを弾き始め、大学では「ロック研究会」というサークルに入るほど熱中していたそうです。

大石先生に理工科大生にお勧めする本はというと、これといったような一冊の本があるわけではないが、なるべく多種多様なジャンルの本を読んでほしいとのこと。様々な本に触れることで広い知識を持ち、ポキャブラリー豊かな学生になってほしいと語ってくださいました。ただ、最近読んで面白かった本として、『暗号化』(スティーブン・レビー著)を紹介してくださいました。現在普及している暗号技術が出来上がるまでのドラマを描いた作品です。

また、大石先生は理工科大生に対して全体的に人として幼く、基礎学力が足りないと感じているそうで、私生活、勉学、サークル活動などあらゆる場面でもっと積極性をもって行動して様々なことを体験してほしいと語ってくださいました。

大石先生、お忙しいなか今回のインタビューに時間を割いていただき、ありがとうございました。

【所在】

「暗号化: プライバシーを救った反乱者たち」
西閲覧室 007.6 / L38

インタビュー・記事：コンピュータシステム学科3年 高田 洸

私の選んだ一冊

館長の本棚「編」

『薔薇の名前』

ウンベルト・エーコ著 河島英昭訳

主人公・フランシスコ会修道士ウイリアムが巨大な図書館を有する中世の修道院に到着するところから話は始まり、殺人事件が起こり、その事件の謎解きに、若い修道士アドソも参加して話は展開する。宗教裁判あり、異端審問官あり、羊皮紙の書写修道士、いろいろな職種の修道士あり、色恋あり、で多彩な物語である。中世と言いながら、何時の時代でもある「時代」が切り取られたような、すばらしい小説です。

小林久理眞 図書館長 推薦

『つみきのいえ』平田研也文 加藤久仁生絵

段々と水没していく村に住む老人の話である。老人は「水位」が上昇するたび、屋根の上に部屋を積み重ねて、生活している。ある日、大工仕事中に道具を落とし、潜水服を着た老人は海底に向かって潜水を始め、潜るほどに、古い昔の部屋を、思い出とともに見出す。そして海底で、奥さんと新生活を始めた頃の最初の家を見つけて、思い出に耽る。その後、またこれまでの生活を、新しくした最上階の家で始める。この話は、実は時間の経過が、水位の上昇を意味していて、しかも、この老人は、私でもあり、あなたでもあるのです。そのことは、ご自分で読んで、確かめてください。

『名画で学ぶ経済の世界史 ～国境を越えた勇気と再生の物語～』

田中 靖浩 著 (マガジンハウス)

学生時代、ヨーロッパの魅力的な絵画やエレガントな建築に憧れ、イタリア、フランス、スペイン、ドイツ、ポーランド等の国々を巡りました。当時、短期間ではありましたが、語学・文化・歴史等を学んだり、イタリアのパドバ大学で共同研究を進めたりして、考え方の違いについて衝撃を受けたことを覚えています。例えば、日本人がイタリア・フランス料理に、"何これ、うまっ!!"というような発言や驚きをすることがあると思いますが、現地ではご法度です。食材の宝庫であるイタリア・フランスでは、「美味しいのは当たり前」で、そのような発言は軽蔑しているのか?と思われてしまうようです。このようなところからも、文化や価値観が違うんだと衝撃を受けました。料理繋がり、イタリア画家：レオナルド・ダ・ヴィンチの晩年の傑作「最後の晩餐」には、魚料理として"ウナギ料理"が描かれています。この当時、イタリア料理自体が、絵画に並ぶ芸術作品であったため描かれ、また、珍品食材の仕入れとして交易・貿易が盛んだったことを裏付けているのでしょうか。このように絵画を一つとってみても、当時の歴史的背景を反映していて面白いと私は思います。

今回紹介する田中靖浩 著『名画で学ぶ経済の世界史』(マガジンハウス) は、ヨーロッパを中心とした絵画の秘話とその国の経済動向について書かれ

ていて、TV ドラマを見ているように分かりやすい内容になっています。特に、経済の発展によって、油絵+キャンバス(布)の導入、活版印刷技術の導入、宗教画主体から肖像画・風景画・風俗画への移行、美術学校や美術館設立等、絵画の発展に重要なターニングポイントがわかりやすく書かれています。また、ペストやスペイン風邪等の流行と収束、イギリス産業革命等の裏事情について、絵画を交えて歴史を知ることができると思います。そこでは、病床に伏したエドゥアール・マネの革新的な絵画や、それに魅了された後輩画家の人間模様も垣間見えます。彼らの追い付け、追い越せの負けん気魂を見ていると、ヤル気と熱意が湧いてきます。また、多少ですが日本の話も登場します。出島を通じて交流のあったオランダと日本の商売上の共通点や、三越の前身についての秘話もあります。このように、通常の歴史の教科書とは一味違った視点から時代の潮流を俯瞰できると思います。最近では、電子書籍でも読めるため、書籍中の掲載絵画を拡大してみると新たな発見があるかもしれません。

美術に興味があれば、高階秀爾 監修『日本の美術画家が描いたヨーロッパ -19世紀の憧れから21世紀の翔きへ-』(美術年鑑社) もご覧ください。

【所在】西閲覧室 332.3 / Ta84

『永遠の0(ゼロ)』百田尚樹著

特攻隊の生き残りである祖父の過去を主人公が捜し歩く物語。最後のどんでん返しの瞬間と、ヤクザになった元特攻隊員が咄嗟の判断で恩返しをする場面が、特に印象的。著者の百田氏はテレビ番組「探偵ナイトスクープ」の構成作家で、本書でも読者を飽きさせない配慮が随所に見られ、映像が脳裏に浮かびます。

小栗勝也 副図書館長 推薦

『後世への最大遺物』内村鑑三著

人はどのような生き方をするのが最善であるかを内村鑑三が教える良書。事業を起こして人々を幸せにするのもよし、その事業のために必要な資金を稼ぐのもよし、どのような事業をすれば人々を幸せにできるのかを考えるのもよし、その考えを書物にして広めるのもよし。しかしながら、これらのことは凡人には難しいことで、二の足を踏む人も多いはず。それでも我々のような凡人でも、1つだけできることがある。しかも、それこそが後の人々にとって「最大の遺物」を残すことにもなる。果たして、それは何なのか。一読をお勧めします。

◎ 紹介した図書は図書館内「館長の本棚」コーナーに展示しています。



図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら学修・研究活動支援を継続していくため、さまざまな対応をとってきました。
この1年の動きについて報告します。

主なできごと

■ 対面 ■ オンライン

2020

3月

臨時休館 (3/11-31) 卒業式中止

4

「緊急事態宣言」全国拡大 学外者の利用休止

臨時休館 (4/23-5/31) 入構制限・学生遠隔授業開始

図書館コンシェルジュ活動休止

5

教職員在宅勤務実施

■ 新入生図書館ガイダンス (~7月)

6

一部対面授業再開 開館 入館受付の実施

■ 第1回 LA 委員会

■ 「文献検索のキホン講座」

7

■ LA 読書会 テーマ「ステイホーム中に読んだ本」

9

後期授業開始 通常開館再開

10

■ 大学祭 (LA 読書会)

11

■ ■ 「文献検索のキホン講座」

12

■ SIST 読書感想文大賞表彰式

2021

1月

■ 学生オンライン選書会

2

■ ■ 第4回 LA 委員会



Teams を利用した
オンライン読書会

オンラインサービスを拡充

- ・「自宅から利用できる図書館サービス」ページ開設
- ・電子ブック試読サービスの実施・購入
- ・オンラインレファレンスの受付
- ・文献複写・購入リクエスト等の Web 申請受付
- ・図書取り置きサービスの提供 (6-9月)
- ・学術雑誌の大部分を電子化 (2021.1月~)



感染拡大
防止対策

- ◆ 換気
 - ◆ 入退館時の手指消毒
 - ◆ マスク着用の徹底
 - ◆ 閲覧席・設備の定期的な消毒
 - ◆ 返却資料は消毒・一定時間の隔離後に配架
 - ◆ 閲覧席数・配置を対面・密接にならないよう調整
 - ◆ グループ学習席を利用中止/個人席に転用
 - ◆ カウンターにビニールカーテン、フロアマーカー
 - ◆ 閲覧席にパーテーションを設置
 - ◆ 臨時返却 BOX の設置
 - ◆ 館内掲示による注意喚起
- ※大学の方針、日本図書館協会「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づいて対応



LIBRARY CALENDAR

☆開館時間： ■ 9:00~18:00

☆休館日： ■

- 2月1日(月) ~3月31日(金) までの開館時間 9:00~18:00
- 2月24日(水)、3月1、8、15日(月)、19日(金) は休館

2月						
日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	・	・	・	・	・	・

3月						
日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	・	・	・

【編集後記】 COVID-19 やアメリカ大統領選の話題など、報道やインターネット、SNS に流れる情報を眺めていると、正しい情報・誤った情報・デマ・フェイクの区別が曖昧になってきませんか。いま・これからの社会を生きていくうえでの情報リテラシーの重要性を実感しています。